

アフリカの農業と除草と

サハラ砂漠以南、とくにサヘル地域の国々では、住民の飢えが危機的様相を呈している。旧宗主国は、輸出向けの商品作物の生産に専念し、アフリカの住民の主食である雑穀類の生産改良を顧みなかったため、これら半乾燥、乾燥気候の国々のトウモロコシ・ソルガム・ミレットなど、食糧作物の生産技術は未開発のままであった。

アフリカの農耕システムは極めて多様であり、雑穀類の生産も今なお広く行なわれている休閒農法によるところが多い。雑草はこの農法では収量低下の最大要因であり、除草労力は、たとえばケニアのトウモロコシ—ゴマーキャッサバの場合、3年間の総労力ha当たり3200人時の27%に達している。また東部ナイジェリアではトウモロコシ／キャッサバと雑草 *Imperata* とが共存するシステムがある。除草は浅いから *Imperata* は根こそぎにならない。その生長をおくらせ、抑制するのが目的だからである。従って作物の葉冠は、*Imperata* を追いついて上方へ伸び、畑全体は上層に作物の葉、下層に *Imperata* の厚い葉の被覆という恰も“2階”の観を呈する。一方雑草は、土壌侵蝕の抑制、遮へいによる土壌水分の保持など有利な面もある。

アフリカの発展途上国の伝統的農法にも、除草剤が根を下ろす日もやがてくるだろう。この伝統的農法の改善過程で、除草剤が無理なく導入できるような技術開発に、日本はじめ先進諸国の協力を期待したい。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 杉 顕夫〕
〔社団法人 国際農林業協力協会技術参与〕

目次 (第18巻第5号)

水田雑草発生診断と除草剤のローテーション使用—使用者側の論理—	2
＜全農農業技術センター 浜田虔二＞	
1. はじめに	2
2. 水稻除草剤変遷史	2
3. 水田雑草発生診断法	5
4. 3か年ローテーション体系の構想(試案)	7
畑作除草剤使用の現状と将来—東北—	8
＜東北農業試験場 野口勝可＞	
世界の農耕地雑草とその調査研究(2) ウリ科概説	16
＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞	
畑地用細粒剤動力散布機の開発利用 試験—速報—	24
＜大分県農業技術センター畑作部＞	
＜鹿児島県農業試験場大隅支場＞	
＜日本植物調節剤研究協会＞	
昭和58年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績概要	28
＜日本植物調節剤研究協会＞	
新登録除草剤一覧	37
＜農林水産省植物防疫課＞	
新登録生育調節剤一覧	38
＜農林水産省植物防疫課＞	